

PTA

やまがた

第38号

平成26年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 新関 徳次郎

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『育もう 強くやさしい心の子どもたちを』

～共に汗をかき 共に笑い合えるPTAを目指して～

強くやさしい心の 子どもたちを育てるために

山形県PTA連合会会長 新 関 徳次郎



山 形県PTA連合会の運営・活動に對しまして、深いご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

また、それぞれの郡・市PTA連合会、単位PTA、地域においても子どもたちを育む環境づくりにご尽力頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

今年度山形県PTA連合会は、「育もう強くやさしい心の子どもたちを、共に汗をかき、共に笑い合えるPTAを目指して」のスローガ

ンの下、様々な活動を展開してまいりました。

私たちが最も大切に行っている研修活動の集大成として「第六十五回山形県PTA研修大会北村山大会」を尾花沢市と大石田町で開催しました。全体行事では、大石田町に縁のある作曲家若草恵氏の記念講演があり、編曲により全くイメージが異なってしまうことに驚きました。また、分科会では「組織・運営の活性化を図るPTA活動」「メディアの功罪を親子で共有するPTA活動」「地域と子どものつながりを深めるPTA活動」「子どもの基本的な生活習慣を確立するPTA活動」「地域と共

ターの適切な進行で活発な討議がなされ話題が深められていました。分科会に参加された皆様は、多くのことを学び、これからの活動の指針を得てくれたものと確信しています。

実行委員会では大会準備に多くの時間をさき検討を加え、この大会を成功裡に導かれたものだろうと拝察いたしております。実行委員会の熱意が伝わる素晴らしい大会でした。

北村山PTA連合会特に尾花沢市と大石田町のPTAの皆様方に心から感謝申し上げます。

また、県PTA母親委員会では「命の尊さ、大切さ」のテーマで十・四五年前から継続して学び、子育ての悩みを共有しながら解決に向けた取り組みが続けています。その折々に子どもたちの置かれている状況や課題も変化していますが、「命の尊さ、大切さ」は永遠のものであります。これからも母親としての特性使命を活かした研修活動にご期待申し上げます。

今年度も県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会を開催しました。小・中・高の子どもを持つ親の立場から捉えた意見、教育行政課題からの意見など様々な意見が交錯し、これからのPTAのあ

り方について深く考えさせられた懇談会になりました。

県PTA連合会では、初めての試みとして、今、子ども社会で問題になっている「ネット社会」に関して、文部科学省の委託を受けて「ネットモラルキャラバン隊」の研修会を遊学館で実施しました。私たち親世代では考えられないような実態が明らかになり、ネットモラル構築のために親世代もなんとかしなければならぬと認識を新たにさせられた研修会になりました。はじめの問題とこのネットモラルの問題は、今後とも継続して取り組まなければならない重要な課題と考えています。

子どもが笑顔で「いつてきます」「ただいま」といつてくれることは、親として何より嬉しいものです。

強くやさしい心の子どもたちを育てるためには、たくさん課題があります。私たちPTAは共に汗をかきながら、ひとつひとつの課題に真摯に取り組み、共に笑い合えるPTAを目指して努力してまいりたいと考えていますので、今後とも会運営のためにご協力を宜しくお願いいたします。

大人とのかかわりで育つ子どもたち

上山市立南中学校 校長

佐藤 俊一

秋

晴れの文化の日、西郷第二小学校PTA主催の「ふるさと教室」が同校体育館で開かれました。市無形文化財の「高松観音お年越しの餅つき」を体験する催しです。

児童による餅つきの由来の発表と稲作体験を詠んだ短歌の発表に続いて、学級毎に餅つき歌を歌い、保存会の方々の手ほどきで餅つきが始まりました。地域・保護者のみなさんが何度も入れ替わって千本杵を振るい、ついに四十キロの餅がつき上がりました。

餅つきも大変ですが、まかないもまた確かな段取りと多くの人手を要します。餅は冷めれば固くなりますので、手際のよさが肝心です。

子どもたちも、上の学年になるほど手慣れた様子で、準備から後片付けまで、大人と一緒に働いています。その過程で印象

に残ったのは、中学生の頼もしい姿でした。

大人に交じって餅をこね続けるたくましさ。手際よく配膳するかいがいしさ。小さな子どもと遊んでやる年長者としての振る舞い。

中学生ともなれば誰でも家庭と学校、そして地域において違う顔を見せるものです。そのことは承知の上でも、一人前の役割を任せられ、それに応える力を発揮している姿は実に心強く思われました。

地域活動では、児童生徒は、小中学校の九年間と大人になるまでの見通しの中で、発達段階に相応しい姿を実践的に学びます。将来への道標をもつ好機です。子どもたちの成長を確かにするために、地域とのかかわりに学ぶ機会を賜りますよう、義務教育の

現場から、お願い申し上げます。



県P研修大会北村山大会を終えて



実行委員長

氏 井 由 隆

ふ

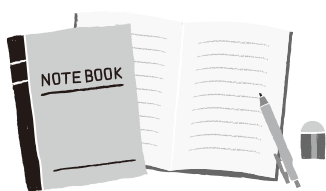
るさとを語り、夢を描く子どもを育むために」時代に対応した活力あるPTA活動」をテーマに開催されました、第六十五回山形県PTA研修大会北村山大会。各地より多数のご参加を賜り、厚く御礼申し上げます。穏やかな秋晴れの下、実りある意見交換が行われましたこと、とても嬉しく思っております。多数のご来賓の方々、事務方の皆様、そして事前準備から当日の裏方や後片付けまで、まさに「おもてなし」の心で支えて下さった実行委員の皆様に心から感謝申し上げます。

午前中の分科会では五つのテーマで、具体的な事例発表と活発なディスカッションが行われ、すぐにでも取り入れたい先進事例を数多く持ち帰っていただけだものと思います。また記

念講演では、地元出身で作曲・編曲家の若草恵先生の楽しいお話を拝聴することができました。音楽活動もさることながら、PTAとしても積極的に活動されていたことは、私たち会員にとっても大きな励みになりました。

プログラムの挨拶にも載せさせていただきましたが、この研修大会は、参加して、見て聞いただけでは、その目的の半分も達成されません。学んだことを、役員の方々だけではなく、参加できなかったすべてのPTA会員の皆様とも共有し、日々の活動に活かしていただいた時に、研修大会の目的が果たされるのだと思っております。

PTA活動は正のスパイラルであらねばならないと思います。来年度の研修大会が、今年の結果と反省に基づき、より実りあるものになることを祈念しております。



山形県PTA母親委員会の活動報告

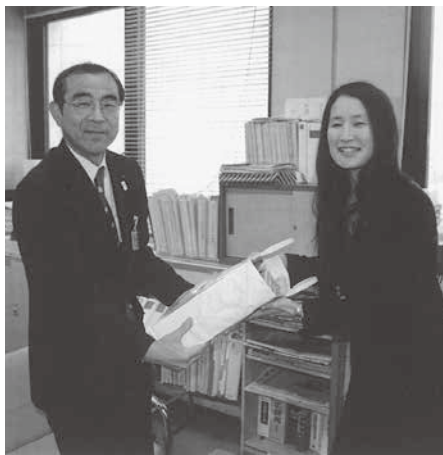


県PTA母親委員長
高橋 裕美

県

PTA母親委員会の活動も、皆様に支えられ、展開できましたこと、心より感謝申し上げます。また、それぞれの郡・市PTAにおかれましても、活発に活動が行われましたことに對しお礼申し上げます。十三郡・市PTAの母親委員長が一同に会して、情報交換を通し、子どもの問題を共有するとともに、私たちが今学ぶべき課題をとらえ、研修することができました。今年度も母親委員会のテーマ「命の尊さ 大切さ」のもと活動してまいりました。定例母親委員会の研修では「親子のかかわり」～子どもの心に寄り添うには～と題して、元山形大学教育学部教授高橋芳子先生をお迎えして学びました。子どもが必要とするこ

とが何かわからなければ子どもの心には寄り添えないこと、反抗期は独立期であり、たくさん寄り添う必要があること、価値観の再構築であり、「独立しようとしているんだ」と思える母親の心の余裕が大切なことを学びました。母親委員会では、今後、情報交換を通して、共有し、母親同士のネットワークを大切に、家庭教育力の向上に努めてまいります。今年度は、県P理事の知事表敬訪問で、パラグアイに移住している県人二世、三世の子どもたちに絵本をおくりたいという知事の意向に賛同し、母親委員会で絵本を集めました。少しでも子どもたちの役に立つことができれば嬉しく思います。



第一回母親委員会 六月二日

- ・正副委員長の選出
- ・活動計画及び情報交換

第二回母親委員会 九月二十一日

- ・各研修大会の報告及び情報交換
- ・研修「親子のかかわり」～子どもの心に寄り添うには～

講師 高橋芳子氏

第三回母親委員会 十一月八日

- ・「母親委員会だより」作成案
- ・県P研修大会等の報告
- ・情報交換
- ・県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加

講師 高橋芳子氏

第四回母親委員会

平成二十六年一月二十五日

- ・「母親委員会だより」について
- ・今年度の反省及び情報交換

各地区のおもな活動報告

《山形市》

- ・母親委員会 年二回
- ・拡大母親委員会 十一月開催
- ・「未来を担う子どもたちに伝えたいこと」 講師 和田 英光氏
- ・「マザーズねつとわく」発行

《上市市》

- ・母親委員会 年一回
- ・研修会 年一回
- ・「親子のかかわり」～子どもの心に寄り添うには～ 講師 高橋 芳子氏

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会並びに母の集い
- ・「ネット社会の現状と防止について」～子どもをトラブルから守るために～
- ・講師 若浜のぞみ氏
- ・「母親委員会だより」発行

《西村山地区》

- ・母親委員会 年三回
- ・「家庭でしてほしい、いのちと性のおはなし」

- ・代表委員会 年三回 講師 井上 聡子氏

《北村山地区》

- ・村山市母親委員会（各校の母親委員会実践例で発表）

《大石田町母親委員会（講演会）》

- ・尾花沢市母親委員会（単Pでの活動のみ）

《最上地区》

- ・定例母親委員会 二回
- ・地区母親委員会全員研修会 年一回
- ・「子どもの独立期を楽しむために」 講師 高橋 芳子氏

《米沢市》

- ・母親委員会 年四回
- ・*情報交換 三回 *講演会 一回

《東置賜地区》

- ・地区P代表母親委員一名が県PTA母親委員会に出席しています。

《西置賜地区》

- ・定例母親委員会 年二回
- ・母親委員会だより発行（各校活動報告等）

《鶴岡市》

- ・母親委員会 年二回（六月・十一月）
- ・*年間計画、情報交換等
- ・「身体ストレス解消でスッキリ」
- ・「グループに分かれて井戸端会議」
- ・事務局会（情報交換・おたよりについて）

《東田川郡》

- ・母親委員会 年二回
- ・（活動報告・情報交換等）

《酒田市》

- ・母親委員長会議 年二回（情報交換・講演会）

《酒田市PTA研修会へ協力》

《遊佐町》

- ・母親委員会 年三回
- ・「やさしい笑顔とやさしいことば」～おしゃか様の教えから～

- ・「母親委員会だより」発行 講師 石川 茂稔氏

「家庭・学校・地域のかけ橋としてのPTAの役割を考える」その2

～「やまがた教育の日」制定の意義について考える～

今、子どもたちを取り巻く環境は、便利で物が溢れ豊かな社会の進展の中で、進行する情報化社会、国際化等々、子どもだけでなく大人もその対応に迷い途惑うことがしばしばです。この変化の激しい時代に、子どもも大人も主体的に逞しく生き抜くために、共に学ぶことの大切さを感じます。家庭・学校・地域の架け橋としてのPTAの役割を再考し、「学ぶPTA」「活動するPTA」のあるべき姿について、次のような視点から話し合いました。

※はじめに、県PTA連合会細越順一理事と、県高等学校PTA連合会渡邊健副会長より話題提供がなされました。

高畠第四中の取り組み

～子どもが自分で作る弁当の日～

- ・香川県の竹下和男氏の講演会を校区連携開催。
- ・子どもが納得してから始めるため、なぜ取り組むのかを1年検討。
- ・献立作成、買物、お弁当作り、お弁当箱洗いまでを自分でする。
- ・「地産地消」「感謝弁当」等テーマを決めて実施。
- ・親は手を出さないで見ている。作り終えた時の達成感のある顔が見られ、親子での感謝の気持ちが芽生えた。

鶴岡中央校の取り組み

- ・高校のPTA活動としては、地域との接点が無いため、生徒1人1人が広告塔として活動し、地域の人々から高校を理解してもらうことが重要。
- ・天魄太鼓、ボランティア・インターアクト等、部活動を通して生徒の地域の行事への参加。
- ・保護者同士のつながりを深めるために、PTA総会を休日の午後とウィークディの夜の2回開催。
- ・SNSの普及による、様々な問題が表面化してきている。的確な水際の指導はできないものか。

視点1 学校や家庭、地域の相互理解のために連携をどのように進めていくか、その方策について。

- ・児童生徒が自ら発信することで、子どもたちも地域の方も改めて地域の良さを再認識できる。
- ・学区が広範囲のため高校の保護者が一枚岩になることは中々難しい。生徒からの発信を地域に広げることが大切。

視点2 いじめ、体罰、児童虐待など子どもを取り巻く教育環境に多くの課題が存在する。教育の原点は家庭であることを踏まえながら、教育環境の改善のためPTAが果たすべき役割について。

ネット上のいじめが、親のわからない所で起きている。携帯電話を持っていなくても、ゲーム機や音楽プレーヤーでライン、フェイスブック、ツイッターをやっている。SNSで悪口を言われた。なりすましメールを送られた。

・ネットに関するトラブル・いじめについては、保護者が危機感を持ち、逃げずに継続して取り組む必要がある。最初に持たせるときが一番大切である。

- ・ダウンロードは親がする、就寝前に返すなどルールを決めてから渡す。
- ・大人が気付いて、困っているところに関わる事が大切。
- ・親子の会話を良くし、ネットのことも話題にしながら、自分の言葉で語る事が大切。

◇体罰について……諸原高校教育課課長

部活動の指導者を集めての指導や、ガイドラインを作成し対応している。山形から根絶して行く方向で努力している。

《総括》 鬼海高P連会長

- ・雪かきボランティアなど高校でも出来ることで、地域と関わる働きかけをPTAの方からもして欲しい。
- ・ネットについて、ソフト開発者はネットではニュアンスが伝わり難いため会話を大切にしている。親もネットについて勉強し判断していくことが大切。
- ・子どものサインを見逃さない。

《講評》 佐藤生涯学習振興室長

- ・学校、家庭、地域の連携教育はPTAが活動母体である。様々な人々とかかわり、人とのつながりが子どもたちの「豊かな社会力」を育み、それが「生きる力」に通じる。
- ・PTAは誰のための活動か？子ども、学校、さらには自分の生涯学習にもなるのではないか。
- ・PTAは家庭、学校、地域のクッション役。あるべき姿について考え、活躍を期待する。

菅野教育長

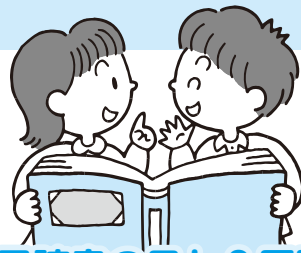
- ・山形県の人口115万人。2040年には80万の予測。どこかで上向きにしていこうという中で、教育は何ができるか。子どもたちに、ここで生きていくということを伝え、国際社会に出る語学力もつけてもらいたい。「グローバルに考えてローカルに活動する」新しい山形に向けてPTAでも議論して欲しい。

活発な意見交換が行われ、充実した懇談会になりました。

文責 県PTA連合会理事 副母親委員長 佐竹 直子

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～



「親子読書の日」3原則

- 20分間はテレビを消してゆっくり読書
- 家の人みんなで楽しい読書
- 読書ではじまる親子のコミュニケーション

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーション活性化により、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願い、この運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

親子読書・地域の活動

寒河江市立幸生小学校PTA

菊地 圭

幸生小学校は、全校児童が十二名のとても小さな学校です。しかし、読書活動については、大きな学校にも負けないくらい活発に取り組んでいる学校でもあります。中でも特徴的な活動である「親子読書」は、PTAが主体となって活動し、今年で三年目になっています。

幸生小学校の親子読書のねらいは、お家での読書時間を活発にすることにあります。いわゆる「うち読（どく）」の習慣づくりです。一学期は、子どもが選んだ本を親も一緒に読んで感想交流をします。二学期は、親子ともに読ませたい本を選び、子どもと一緒に読んだり、感想交流をしたりします。これらの本は、選んだ家庭のみならず、一～二週間程度の期間で、順番に全家庭に貸し出されます。人数の少ない幸生小ならではの活動です。

子どもが自分で選んだ本、親が読んで欲しいと願いを込めた本、そしてお友達のご家庭のおすすめの本、と幅広い読書経験を積むことができます。

るのが、この活動の最大のメリットかもしれません。

今年度、紹介された本の一例は、次のようにバラエティあふれるラインナップになっています。

- きまぐれロボット
- 注文の多い料理店
- かわいそうなぞう

親子で、また家庭間で読書交流した際には、紹介文や一言感想を書いておき、年度末に「親子読書感想集」としてお届けする予定です。

「本を身近に感じられる子ども」をめざして

村山市立富本小学校

伊藤 紀子

本校は、「本を身近に感じられる子ども」をめざし、国語科の研究を軸として多様な読書活動を推進している。その活動は、保護者、家庭との連携、地域との連携によって支えられ、その中核を担っているのが、親子読書である。

本校の親子読書は主に、夏休みと十一月の二回行っている。夏休み中は、夏休みの課題の一つとして、十一月の親子読書は、読書月間中の土日の課題の一つとして、時間をしっかり確保して読書をするものと併せて親子読書を行っている。夏休み、十一月、どちらも親子読書の感想は、

各教室やホール等に掲示したり、図書だよりで紹介したりして意識を高めている。

親子読書に対して保護者からは、一緒に本を読むことで親子のふれあいが増えたことや、自分も昔同じ本を読んだこと、子どもの成長の様子が驚いたことなどのさまざまな感想が寄せられ、どの家庭でも親子で楽しく読んだり、一緒に読んで真剣に読んだりしている様子がよく分かる。本校の子どもたちは本好きな子が大変多い。その理由の一つとして、親子読書の影響は非常に大きい。親子で一緒に読書をする中で、好きな作家を意識して本を選んだり、親子や友達と読書の話題で盛り上がり、本を読むのを楽しんだりと読書に対する意欲の向上が見られる。

親子での読書は、本校の読書活動でめざす「本を身近に感じられる子ども」にとって、なくてはならない活動と言えるだろう。

親子読書の取り組み

最上地区

最上地区各校における「親子読書」の取り組みについて、一部を紹介します。

(1) 毎月、期間や期日を決めて一〇分読書をするなど、親子で読む時間

をとった。

(2) 親子で同じ本を読んで感想を交流した。

(3) 親子の感想をカードに書いて放送したり、校内に掲示したりした。

また、おたよりで紹介し啓発した。
(4) 親が読み聞かせをして、子どもが感想を伝えた。

(5) 子どもが親と一緒に読みたい一冊「親が子どもに伝えたい一冊」の取り組みを行った。など

最上地区の特徴としては、小中学校とともに、多くの学校に広がってきたこと、学校やPTAの取り組みとして全体で取り組んでいること、期間や期日を決めたり、ノーメディアデー・生活リズム確立と関連させたりしていることが挙げられます。

また、親子の感想を書くだけでなく、多くの人に紹介することで、いろいろな内容や感想を知ることができ、より本のおもしろさを感じることでできているようです。

さらに、授業参観に親子で本を選んだり、学校図書館の保護者貸し出しを充実させたりするなどの例もありました。

親子読書といっても、やり方は多様で、学校と保護者が連携しながら工夫して取り組んでいます。これからも、継続していくことで、親子の

コミュニケーションがますます図られるようにしたいです。

ノーメディアデーと読書

酒田地区

酒田地区の小中学校では、「ノーメディアデー」が徐々に広まりつつあります。各校によって名称は様々ですが、テレビを消しゲームをしないで、家族一緒に食事をしたり、会話を楽しんだり、読書をしたりする時間に充てましょうという取り組みです。各校の取り組みも千差万別であるため、市P連研修大会や、母親委員長等会議で情報交換をしながら各校で取り組みそうなことを学校と相談しながら進めています。

各校の取り組みを紹介します。

【A小学校】

夏休みや、冬休みに、下学年は親子読書。上学年は家読（いえどく）に取り組んでいます。親子で同じ本を読み、感想を交流します。PTAの取り組みとして、ノーメディアデーの実施に力を入れています。テレビゲームやゲームの時間を、親子での語らいや読書の時間にするように進めています。家庭での読書離れの声がよく聞かれます。酒田市のPTAが一九丸となって取り組むことで、本を読むのが好きな子どもが増える

ことを期待しています。

【B小学校】

年間六回、夜間又は土曜日の午前中図書館を地域全体に開放しています。六回の解放日は、各学年PTAが一回ずつ運営を分担し、図書の貸し出しだけでなく、読み聞かせや紙芝居なども行い、工夫しながら運営しています。図書館の夜間・土曜解放は、平成六年から継続しています。なかなか親子で読書をする時間が取れない中、親子交流の場にもなっています。

本で結ぶ親子の時間

米沢市立興譲小学校

後藤亜矢子

興譲小学校では、夏休みや冬休みの長期休業期間と、十一月に親子読書の取り組みを推進しています。十一月は、児童会の図書委員会が中心となり、読書を推進する活動を行っていて、それと連動して実施しています。

取り組み後に、感想を寄せてもらいました。

○今回は、娘が私に読み聞かせをしてくれました。ひざの上に座って大喜びで、いきいきと本を読んでくれました。スキップもとることができて良かったです。（二

年女子母）

○お母さんに読み聞かせをしてもらいました。私は、お母さんのやさしい感じの読み聞かせが好きです。だから、もつと親子読書をしたいと思いました。（五年女子）

○慌ただしい毎日の中、本を読む時間はほっこりできる癒やしのひとときでした。これからも少しの時間でもいいので親子で読書できるひとときを持ちたいと思います。（五年男子母）

○一緒に本を読む時間があると、そこから会話がいろいろ出てくるものです。楽しい時間が持てました。（五年女子母）

期間を区切つての取り組みではありますが、読書を通して親子の会話やふれあいが生まれ、素敵な時間を持つことができているようです。また、本の読み方や選び方から子どもの成長を感じたり、これをきっかけとして親子読書を続けたりしているご家庭もあります。忙しい毎日ですが、ぜひ親子で本に親しんでほしいと思います。



優良PTA文部科学大臣表彰

全員参加のPTA活動を目指して 未来を担う子どもたちのために

尾花沢市立尾花沢小学校

PTA会長

間 宮 康 介

創立一四〇年の記念すべきこの年に、名誉ある賞を頂戴することとなり、本校PTA創設からこれまでの活動にご尽力いただいたすべてのPTA会員の皆様、教職員の皆様、そして、地域住民の皆様に深く感謝申し上げます。

一 はじめに

本校は、尾花沢市の中心部に位置し、学区には市役所をはじめ市立図書館や体育館、消防署、警察署などの公共施設も多く、市の行政、文化、経済の中心地として、教育的にも恵まれた環境にあります。平成二十二年四月には牛房野地区の児童が、今年度の四月には安久戸地区の児童が、市内小学校の統合を受け、本校に転入しています。このような変革がありました。このような参加のPTA活動を目標に会員が協働してきました。

二 特色のある取り組みについて

(1) 全員参加の活動（その一）

学年分担当による活動
学校教育活動への支援を学年分担当とすることで、全員参加への理解と啓発、及び会員相互の交流を深めることができます。併せて、親子共通の話題を持つことができるため、家庭教育の推進も図ることができます。

例 ① 一学年PTA

- ・ 夏季休業中のプール監視
- ・ 校内スキー大会前日準備
- ② 四学年PTA
- ・ 校内スキー大会前日準備、当日運営役員、後片付け、反省会

③ 二・四・五学年PTA

- ・ 春の早朝作業（環境整備活動）
- ④ 一・二・六学年PTA
- ・ 秋の早朝作業（環境整備活動）

(2) 全員参加の活動（その二）

学年毎の子育て研修会

子どもの発達段階に応じた親の在り方について、学年毎に研修を積みむことで家庭教育の充実をめざします。

例 ① 三学年PTA

- ・ 「子どもの心が育つ黄金の時」
- ② 六学年PTA
- ・ 「中学生になる子どもとの向き合い方」

(3) 全員参加の活動（その三）

学年毎の親子行事の開催
親子一緒に活動する行事を通して、親子の絆、ふれ合いを深めるとともに、思い出作りと学年全体の交流をさらに図ることができます。

例 ① 二学年PTA

- ・ 「親子で物作り」
- ② 四学年PTA
- ・ 「1/2成人式」

③ 五学年PTA「芋煮会」

(4) 食育の推進を目指した活動

母親委員会の取り組み

平成二十四年度文部科学省委託事業「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の実践中心校としての尾花沢小学校の取り組みにPTAとして参画しました。

① 母親委員会による

「簡単朝ごはんレシピ集」の編集

② 食育の啓発を図る講演会開催

演題「食を通した子育てとは」

③ 学校保健委員会の開催（年2回）

三 成果と今後の方向性

学校教育活動を学年PTAに割り当て、子育て研修会や親子行事を学年PTAが主催したりすることで、会員一人一人の参加意識や関心が高まり、PTA活動を身近なものと感じるとともに、全員参加のPTA活動により近づけていけるものと考えています。

一方で、参加を躊躇する会員も少なからずいるのが現状です。少子化や核家族化が進み、学校統廃合などが進んでいる中で、私達PTAに必要なことは、子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指して、そして、子供の夢、創造性を伸ばしながら、五つの心（素直、感謝、反省、奉仕、謙虚）を自ら表現できる子供に育てることを目指して、PTA会員が大きな輪となって子供たちが育つ環境づくりをしていくことではないでしょうか。

「子育て」から「子育て」へ。大人も子どもとともに学び、そして、成長しながら、会員同士の呼びかけや親睦を深める活動を今後も進めていくことが必要であると感じています。

一 はじめに

明安地区は、金山町の南西に位置し田園が広がる農山村地帯で、多くが兼業農家となっております。

明安小児童の家庭環境は三世代家族が多く、祖父母の児童への積極的な関わりにより、「地域の先生」として活躍していただいております。

今年で創立百三十周年を迎えた歴史ある学校は、全児童数三十九名。何事にもひたむきに取り組む子どもたちは、全員登校日「百三十日」を目指して現在挑戦中。PTA会員数は二十九名。教師会員八名。賛助会員百四十二名。五つの部会で構成されます。

二 三つの特色ある活動

(1) 子ども歌舞伎の運営

明安小の伝承活動としてPTAが運営の中心となって実施し、今年で十三年目。安沢歌舞伎保存会の指導者を講師に、五・六年生が四〜十月

に練習。歌舞伎独特の言い回しや、

上演場面の理解を深め、一つ一つの動作を繰り返しながら、振り付けや見えの切り方を習得。十月の「金山町子ども伝統発表会」では、菅原伝

授手習い鑑「吉田社頭車引きの場」を上演。

(2) 家庭の教育力を高める活動

① おしどり学級の開催

父母と教職員の全員が参加し研修する「おしどり学級」を開催。父母そろって参加できる子育て講演会を目指し、開催日程を組んでいます。PTA育成部が、テーマの話し合い、講師選定、講演会運営も担当。PTAの主體的な関わりが定着してきました。

平成二十三年度講演会は、「大人は伝えているか？」平成二十四年度講演会は、「子どもたちの未来のために」をテーマに、講演会を実施。

② 育成部による『三行詩カレンダー』作成

親子や家族の関わりを三行詩にしたため、共感、感動を共有し、子どもと家族の絆をさらに深めたいねらい。

PTA全家庭に募集し、優秀作品十二点ずつを選定。子どもたちが描いた絵画及び版画作品と合わせたオリジナルカレンダーを作成。今年度は地域全戸に配布。

③ 子どもの居場所づくりと安全確保 ① 『放課後子ども教室』での体験活動提供

家族や先生以外の大人と関わることで、心豊かに健やかに成長することをお願い、教育委員会と連携して、子どもたちが楽しく過ごす居場所を設定。明安小学校では、低学年を安全に帰宅させるため、上学年の終了を待って低学年児童と一緒に下校させるようにしていますが、その待ち時間に開催。安全管理委員として、PTA会員が三名おり、多様な体験活動を提供しています。

② 子どもの安全を守る取組

一つは、子ども見守り隊。PTA、会長、副会長、区長、交通安全母の会、桃の木クラブ、婦人会によって構成し、登下校の見守りを実施。二つ目は、校外生活モニター調査。危険な行動や問題行動を把握。指導実施する。三つ目は、毎月一日の登校

安全指導。四つ目は、児童が自転車乗車時のヘルメット着用呼びかけ。

三 成果と今後の方向性

子どもたちが地域の指導者と自然なコミュニケーションをとりながら、伝統文化を継承し、守ることの大変さを体験。大きな心の成長を遂げていると実感しています。

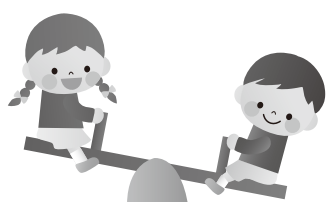
学校、保護者、地域の方々がいいバランスで共有し、本校PTA活動のねらいが広がりつつ、子どもたちが充実した学校生活を送っています。

PTA活動テーマは、子どもたちの目標と同様「やる気と笑顔でさらに前へ」を掲げています。会員数の減少に合わせ、組織のスリム化と運営見直し等も行い二年目を迎えました。活動の取組成果や課題を踏まえ、会員のやる気と笑顔（融和）を大切にして、改善に向け積極的に行動するPTAを目指し、さらに活動を充実させてまいります。

優良PTA文部科学大臣表彰

進んで活動し、豊かな 子育てを目指すPTA

金山町立明安小学校 PTA会長 沼澤 好信



この度、平成二十五年度「日本PTA全国協議会長表彰」という大変名誉ある賞を頂き、これまで尽力いただいたPTA会員・地域の皆様、そして諸先輩方に感謝申し上げます。これを励みに、尚一層子どもたちのためにPTA活動を推進してまいります。

一 はじめに

本学区は北側に葉山から続く丘陵、南側に寒河江川が流れる風光明媚な場所であり、世帯数およそ三百戸、人口約千二百名で、開基以来千二百有余年を数える慈恩寺が近くにあり、ます。現在児童数六十四名、保護者四十七名の小規模校です。

二 特色ある取り組み

①保護者主体の組織運営

PTA事業は企画段階から部長、委員長が主体的に会合を開き、全会員が一体となって運営しています。保護者の主体性が強く、教師は子どもの指導にしっかりと向き合える環境にあります。

②学校と家庭で課題を共有

心豊かでたくましい子どもを育てるために学校と家庭で次のような課題を共有しています。

(ア)安全・安心・安定した生活が出来る条件を整備する。

(イ)基本的な生活・学習習慣を身に付けさせる。

(ウ)醍醐の歴史・自然・文化にふれる体験活動を大事にする。

これらを基本に専門部、母親・学年委員会の活動を展開しています。その中からいくつか紹介します。

アについては、「醍醐子ども見守り隊」への積極的参加と危険箇所調査を元にして作成する「安全マップ」に力を入れています。マップは

日本PTA全国協議会長表彰 子どもも保護者も そして学校も元氣なPTA

寒河江市立醍醐小学校PTA会長

猪倉 秀行

地区全戸に配布され、みんなで子どもを守る体制にあります。また、芝生のグラウンドや学校林、自然道の整備や親子清掃など、学習環境の整備に全保護者が献身的に取り組んでいます。

イについては、あいさつ運動、ウイズメディア運動、食育への取り組みがあげられます。

あいさつ運動では「あいさつ日本一」を合い言葉に、親子で標語を考え、幟旗にしてお祭り、朝の立哨を

しています。慈恩寺を訪れるお客様から「とても気持ちよいあいさつをしていたいただきました」とたくさん褒めてもらっています。

メディア運動では、子どもが納得する目標を掲げ「メディアと適切に関わる能力を付ける」ために、共通して取り組む事、各家庭で取り組む事を並行して実施しています。その結果「ふれあいの時間をたっぷりとることが出来た。」「集中力がアップして、はじめも付いてきた。」等

の感想が多くなってきました。

食育では、母親委員会を中心に「食に親しみ、楽しむ児童の育成」をめざし、広報紙「パタパタママ」を通して、栄養満点のメニューの紹介をしています。また給食試食会、食生活改善委員を招いての親子クッキング教室も開催しました。

他にも、「家庭学習の手引き」を共同で作成する等、常に学校と同じ方向で活動しています。これらの活動は、寒河江市で進めている「さが

えっ子育みプラン十ヶ条」にも合致します。

地域での体験活動では、各学年の親子行事を「親子ふるさと学習」と命名し、地域の歴史・自然・文化を学ぶ活動を豊富に取り入れています。

三 成果と今後の課題

学校と保護者・地域が連携して、共通の課題を共有することにより、同じ視点で子どもを見られるようになってきました。「醍醐の子は醍醐で育てる」という意識が浸透し、様々な活動に勢いが感じられ、子どもたちの成長を感じます。

課題としては、諸行事が集中する時期があり、毎週のように日曜日に行事が組まれるような月もあります。児童の負担がこれ以上重くならないように配慮したいと考えています。



3, 4年生親子ふるさと学習
自然道2コース、慈恩寺へ出発!!

この度名誉ある賞をいただき、これまでの活動にご尽力いただいたPTA会員の皆様、地域の皆様、先生方に深く感謝申し上げます。

一 はじめに

本校は酒田市の市街地の東南部に位置しています。児童数は三九二名、会員数は三〇三名です。保護者もPTA活動への関心が高く、今年度も「すべては子どもたちのために」をスローガンに掲げて活動を行っています。現在、統合校の新校舎建築中のために、昨年五月から仮の校舎として旧酒田商業高等学校の校舎で学んでいます。

二 特色ある取り組みについて

(1)見守り隊と連携した子どもたちを見守る交通安全指導

旧酒田商業高校は、学区外にあり、通学距離が約一キロ長くなり、新井田川にかかる新井田橋も渡ることになりました。

そこで、子どもたちの登下校の安全確保のために次のような取り組みを行いました。

①新通学路の実態調査

生活部員が中心となり、旧酒田商業高校までの通学路の実態を調べました。調査は、子どもたちの目線と

同じになるよう、徒歩で行いました。降雪時も含め数回の実態調査が行われました。

②各種団体との協議

調査を基にして、新通学路を絞り込み、何度も教育委員や警察署等と協議を重ねました。

③情報提供と協力依頼

集めた情報を速やかにPTA会員や交通安全協会、自治会等に提供していきましました。今までも協力いただいていた「亀っ子見守り隊」の方々

日本PTA全国協議会会長表彰

すべては子どもたちのために

酒田市立亀城小学校PTA会長 松 本 国 博

には、さらに登下校時の子どもたちの見守りや挨拶運動の推進をお願いしました。

④「亀っ子見守り隊」から一般会員への広がりに

登校時は「亀っ子見守り隊」の隊員だけではなく、子どもたちと一緒に歩いてくださるPTA会員の方々が増えてきました。通学路の途中で挨拶や安全を見守ってくださる方も以前よりいぶん多くなり、この二年間交通事故が起きていません。

(2)学校保健委員会

年二回の学校保健委員会では、四年生と二年生がそれぞれのテーマを決め、親子で取り組んだ実践を報告しています。近年の学年テーマでは、歯磨きや生活リズムを取り上げられました。二年生での実践を継続し四年生ではさらに深めるというような貴重な実践もあり、子育て真っ盛りの情報交換の場になっています。

(3)亀子連との連携

亀城学区子ども会連絡協議会と連

親子で一緒に研修を深める活動です。北前太鼓の演奏を聞いた後、一緒に演奏にチャレンジしたり、講師を招聘して学校や学区の歴史を学んだりしています。

②亀城の森教育を語る会

自治会長や幼稚園保育園、民生児童委員、スポ少関係者、PTA会員等が一堂に会して、子どもたちの健全育成のために地域でできることを話し合い、実践し、地域全体で子どもたちを育てようとしています。

(5)情報提供と会員の啓発

平成二十二年度から連続して山形県PTA会長賞を受賞している広報「ひなづる」の年三回の発行や総務だより、生活指導部だより、母親委員会だより等を数多く発行し、いろいろな情報の発信とPTA会員への啓発活動を進めています。

三 成果と今後の方向性

平成二十六年度からは港南小学校と統合し亀ヶ崎小学校としてスタートします。両校の伝統やPTA活動の実践を引き継ぎ、三中学区小中PTA連絡協議会との連携も深めながら、子どもたちのために活動を進めていきたいと思います。

①親亀学級

(4)地域と連携した研修活動

東北ブロックPTA研究大会福島大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

長 沼 建

九月の七日から八日にかけて、福島県において、『ほんとの空の下で語り合おう！笑顔あふれる子どもの未来を』を大会主題として東北PTA研究大会福島大会が開催されました。

一日目、午後から各会場に分かれての分科会でした。私は、福島駅近くの『AOZ（アオーゼ）』という会場で「特別支援教育」に関する分科会に参加しました。今までPTA研究大会等で「特別支援教育」について分科会が設けられた事はあまり例がなく、また現状として通常学級における「特別な支援を必要とする子ども」が増加傾向にあることなど、これからのPTAにはとても必要なことであり勉強になればと思いますこの分科会に参加することにしました。

まずは東北各地の四名の方から実践発表があり、特別支援学級の子どもたちや

特別な支援を必要とする子どもたちがいかに通常学級の児童生徒とかわって生き生きと学校生活を送れるようにできるか。また、通常学級の児童生徒が特別支援学級の児童生徒の一生懸命に頑張る姿を見て、お互いに認め合う感情が生まれることで共に学びたいという気持ちになること、自分の苦手とすることに真剣に向き合い、克服しようと努力している特別支援学級の児童生徒が通常学級の児童生徒に刺激を与えて良い関係になっている。などの内容でした。その後、福島大学の内山登紀夫教授より『発達障害の理解と支援』と題して、主に自閉症スペクトラム障害の子どもについて講演をいただきました。

とても素晴らしい発表で我々は勇気と感動をいただき、これからも頑張ろうという気持ちになりました。

二日目、『パルセイイざか』にて全体会が開催され、記念講演は登山家の田部井淳子さんでした。登山に関わるジョークまじりの楽しいお話をお聞きしました。表彰でも昨年、日本PTA全国協議会の会長をされた武田岳彦前県P会長をはじめ、PTAに御尽力いただいた方々が表彰を受けられました。

おめでとうございました。今回の東北PTA研究大会福島大会は、分科会・全体会ともに素晴らしい充実した内容の東北ブロック大会でした。

第61回日本PTA研究大会みえ大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

武 田 宣 行

八月二十三・二十四日の二日間、伊勢神宮の遷宮行事で賑わう三重県において、第六十一回日本PTA研究大会みえ大会が開催されました。

一日目は、三重県内八市十一会場に分かれて分科会が開催され、基調講演では、小惑星探査機「はやぶさ」未踏課題への挑戦と教訓としての演題で津市出身の萩野慎二氏がNECから開発プロジェクトマネージャーとなり開発から帰還まで「はやぶさ」チームの責任者として打ち上げまでのプロジェクトを支えた貴重な体験談として戻ってくるまでの貴重なお話をされました。

午後からは、津市立美杉小学校PTAの誕生と発展と題し、十校の小学校が今

では一校になってしまったという実例と統廃合に関わった方々のパネルディスカッションが行われました。時間がない中の統合で一番は今学んでいる子どもたちの為に何が出来たか、何をしたいかなければならないということを考えたそうです。

どの地域でも起こりうる話に、改めてPTA活動の難しさや大切さを感じた大変有意義な分科会でした。

二日目全体会記念講演、子どもたちの未来へ「ヴァイオリニスト・作曲家の川井郁子氏は、引込み思案で自分を上手く表現することが出来なかった子どもの頃、そんな自分の感性を認めてくれた先生との出会いや、子育てによって嫌な思い出だった自分の幼少期がいとoshいものに変わったとお話をしてくれました。素晴らしいヴァイオリンの演奏を数多く聞かせてもらい心が癒され、感動の一時を過ごすことができました。

最後に山形から一緒に行ったメンバーとも中味の濃いお付き合いができ、今後の活動に弾みがついた大会でもありました。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も表彰されました。ご紹介いたします。
(敬称略)

平成25年度 文部科学大臣表彰

尾花沢市立尾花沢小学校PTA
金山町立明安小学校PTA
逸見 良昭(県P第20代会長)
遠藤 正明(県P第21代会長)

平成25年度 日本PTA会長表彰

寒河江市立醍醐小学校PTA
酒田市立亀城小学校PTA
武田 岳彦(前県P連会長)
長沼 建(県P連副会長)
三浦 哲哉(前県P連副会長)
小林 俊一(前県P連副会長)
武田 重也(元山形市P役員)
大貫 淳(山形市P役員)
中村 憲史(元県P連役員)
田澤 雅宏(元県P連役員)
五十嵐昭彦(元県P連役員)
渡部 由美(酒田市P役員)
土門 憲(前県P連役員)

平成25年度 東北PTA連絡協議会表彰

(団体表彰)

山形市立村木沢小学校PTA
小国町立沖庭小学校PTA

(感謝状)

武田 岳彦(前日本P会長、前東北P連会長、前県P連会長)

(表彰状) 平成24年度理事・監事

大澤 泰雄(上山市P・上南小)
荒澤 晃(天童・東村山地区P・天一中)
日下部一男(西村山P・陵東中)
松岡 茂和(北村山P・楯岡中)
井上由紀雄(米沢市P・関根小)
今野 誠(西置賜地区P・長井小)
難波 金一(鶴岡市P・朝日中)
菅原 卓(東田川郡P・横山小)
土門 憲(飽海郡P・吹浦小)
深瀬 千香(北村山P・楯岡中)

平成25年度 優良PTA山形県教育委員会表彰団体

尾花沢市立尾花沢小学校PTA
寒河江市立醍醐小学校PTA
山形市立村木沢小学校PTA
山形市立蔵王第一中学校PTA
金山町立明安小学校PTA
小国町立沖庭小学校PTA
飯豊町立第二小学校PTA
酒田市立亀城小学校PTA
庄内町立余目第四小学校PTA

平成25年度 山形県PTA連合会会長表彰

(感謝状) 平成24年度理事・監事

武田 岳彦(前県P連会長)
三浦 哲哉(前県P連副会長)
小林 俊一(前県P連副会長)
大澤 泰雄(上山市P・上南小)
荒澤 晃(天童・東村山地区P・天一中)
日下部一男(西村山P・陵東中)
松岡 茂和(北村山P・楯岡中)
井上由紀雄(米沢市P・関根小)
今野 誠(西置賜地区P・長井小)
難波 金一(鶴岡市P・朝日中)
菅原 卓(東田川郡P・横山小)
土門 憲(飽海郡P・吹浦小)
深瀬 千香(北村山P・楯岡中)
板坂 憲助(小学校代表)
佐藤 政彦(中学校代表)
金山 康一(西村山P監事)
山本 正博(教職員監事)

(表彰状) 郡・市PTA連合会より推薦

伊藤 淳一(山形市P) 黒坂 博志(最上P)
佐藤 文昭(山形市P) 菅 孝(最上P)
手塚 秀雄(山形市P) 高野 正雄(米沢市P)
鈴木 康彦(山形市P) 鈴木 京子(米沢市P)
中村 憲史(上山市P) 安田 明生(酒田市P)
松田 和義(天童・東村山P) 土田 伸(酒田市P)

平成25年度 第35回全国小中学校PTA広報紙コンクール

(日本教育新聞社社長賞)

酒田市立松原小学校PTA(まつばら)

(日本PTA奨励賞)

東根市立東根小学校PTA(けやきの窓)
新庄市立沼田小学校PTA(ぬまた)
鶴岡市立櫛引東小学校PTA(くろあざみ)
酒田市立宮野浦小学校PTA(浦のあさ)
酒田市立亀城小学校PTA(ひなづる)
最上町立最上中学校PTA(PTAだより)
山形市立蔵王第一中学校PTA(蔵王嶺)
村山市立葉山中学校PTA(はやま)
(山形県PTA会長賞)
山形市立千歳小学校PTA(ちとせ)
山形市立南山形小学校PTA(わかすぎ)
最上町立大堀小学校PTA(清流)
高島町立糠野目小学校PTA(まつかわ)
鶴岡市立朝陽第一小学校致道会(致道)
鶴岡市立朝陽第六小学校PTA(緑のつばさ)
酒田市立富士見小学校PTA(ふじみ)
遊佐町立吹浦小学校PTA(ふすま)

子どもたちの永遠の笑顔を目指して



山形県PTA連合会
第20代会長

逸見良昭

「PTAって何ですか？」「PTAはどんな活動をするのですか？」
これが私のPTAに対する最初の認識でした。

今からちょうど二十年前、長男が小学校に入学した時に、全くPTAという言葉の意味すら分からず一會員となりました。その後単位PTAでの会長をきっかけに、山形市・県・東北で会長を務めさせていただき最後は(社)日本PTA全国協議会の副会長まで務めさせていただき、いつしか生活の一部までになっていた事を懐かしく思います。

PTA活動を通じて数多くの方々との出会いがあり、また数多くの事を経験させていただきました。それら全てが私の人生にとってかけがえのない財産であり宝です。本当に感謝しています。同時に、PTA活動の

素晴らしさ大切さを実感することが出来ました。

戦後間もないころは、子どもたちの為に備品を購入するというような学校後援会的な活動が中心でした。その後、PTAの存在意義を模索する時期も確かにありました。しかし現在はPTAなくして学校教育が成り立っていかないとと言っても過言ではありません。PTAは家庭・学校・地域を繋ぐ要なのです。だからこそ子どもたちを取り巻く社会や教育環境が変わったとしても、子どもたちに対する親の思い・愛情は普遍であると信じ、子どもたちに愛情を注ぎながら手間暇をかけ、心を込め、心を尽くし、心をはぐくむ活動を期待しているのです。

終わりに、PTA活動は「子どもたちの永遠の笑顔を目指して」という思いを共通認識として持ち、今子どもたちのために何ができ、何をやらなければならぬかを常に問いかけながら活動していただきたいと思います。



文部科学大臣賞受賞に浴して



山形県PTA連合会
第21代会長

遠藤正明

この度身に余る賞を頂戴し、ひとえに共に活動してきた仲間と関わって下さった皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

振り返れば、長女が山寺小中学校に入学してから、三女が高校を卒業するまでの二十年間、PTA活動を全うする事が出来ました。

一貫し「PTAは子どもたちの応援団」という思いのもと、子どもたちの笑顔を守っていきたいと考えました。そこで、学校と先生方がゆとりを持って、子どもたちの学力向上に力を注げる環境を整えたいと、行動して来ました。

また、平成二十年度県PTA連合会六十周年に合わせ、県教委で推進された「やまがた教育コミュニケーション改革」と連動、保護者の意識調査を行い、その分析結果をもとに、そ

の後の活動に活かして参りました。そして、モンスターパーレンツや給食未納問題などが話題になった時期にあって、大人としての常識が問われており、保護者として問題を直視し、「当たり前の事を当たり前に」と、関係団体と力を合わせ解決することを訴えました。

日本PTA全国協議会においては、副会長の役職を頂戴し、全国のPTA活動に関わる中で、山形県の活動・教育が極めて秀でていることを実感しました。また、公益法人制度検討委員会委員長として二年に渡り検討を重ねた結果が、平成二十五年四月の公益社団法人取得に繋がった事を嬉しく思っています。

PTAは不連続の連続です。創設以来、脈々と流れる子どもたちを守る活動を、今後も継続して、地域の中で子どもたちの笑顔が輝く事を、切に願っております。





山形県PTA連合会安全互助会から

山形県PTA連合会安全互助会の運営にあたり、関係各位・保護者の皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。

※東日本大震災以降、被災児童・生徒の安全互助会及びPTA連合会の会費は免除されていましたが、他県や日本PTAの状況を鑑み、理事会で検討し、平成26年度からは納入していただくことになりました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

※近年賠償事故が増加しています。特に「人身事故」で高額請求があり、補償限度額50万円を超えた事故も複数ありました。このような状況を踏まえ、山形県PTA連合会では他県安全互助会の補償内容等の情報を参考にし、平成27年度からの補償内容の見直しを検討しています。

※事故の未然防止が一番大切です。登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力ください。

・・・・・・・・保険金支払い状況・・・・・・・・

(単位千円)

傷害事故支払状況				
	件数	児童・生徒	件数	PTA傷害
平成23年度	1,496	13,961	89	3,715
平成24年度	1,419	12,713	59	3,342
平成25年度(1月末)	1,225	11,538	65	2,657

賠償事故支払状況		
	件数	金額
平成23年度	60	3,453
平成24年度	66	3,767
平成25年度(1月末)	77	5,893

日常生活での不慮の事故に備え安全互助会への加入を今後ともよろしくお願いいたします。

県P研修大会 天童・東村山大会案内

天童・東村山地区PTA会長（山辺小P会長） 佐藤 光之



平成二十六年
度
の
山
形
県
P
T
A
研
修
大
会
を、
平
成
二
十
六
年
十
月
十
八
日（土）に、天童市スポーツセンターをはじめ、山辺町、中山町、そして天童市内の公民館を会場にし、天童・東村山地区PTA連合会が主管となり開催することになりました。

大会主題は「豊かな関わりの中で、仲間とともに成長する子どもを育むために」複雑化・多様化する社会に対応したPTA活動」とし、人々との深い絆や豊かな自然など、郷土山形の持ち味や強みを大切にしつつ、人口減少や高齢化、情報機器の浸透など、急激な時代の変化に対応するPTA活動や保護者のあり方を探ります。大会には、県内各地から約九〇〇名の参加を予定しており、地域の特徴を生かした実践や課題克服に向け学校と連携した取り組みなどを、交流し互いに学び、高まり合う機会にしたいと考えています。

午前の分科会では、主題に迫る五つのテーマ

・活動が活性化するPTA組織と運営

・情報メディアに積極対応するPTA活動

・地域と子どものつながりを深めるPTA活動

・子どもの生活習慣を確立するPTA活動

・子どものいのちを守るPTA活動

を設定し、各地区の優れた実践発表や小グループでの話し合いなどを行い、テーマについてじっくり語り合います。

午後は、全体行事と記念講演とし、広い視野から自身の生き方やあり方を考える機会といたします。

本大会は、参加者が直に顔を合わせ、抱える課題や悩みを率直に出し合うことで、共感と連帯、そして明日につながるエネルギーが生れる会にしたいと考えております。多くの皆様のご参加とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご案内いたします。

平成25年度 山形県PTA連合会役員名簿

会 長	新関徳次郎	山形市PTA連合会	山八中	理 事	佐藤 敬徳	酒田市PTA連合会	琢成小
副会長	武田 宣行	山形市PTA連合会	山一小	〃	今野 徹	飽海郡遊佐町PTA連合会	遊佐中
〃	長沼 建	最上地区PTA協議会	新庄小	〃	佐藤 淳一	県小学校教職員代表	楯岡小
〃	遠藤 正明	西置賜地区PTA連絡協議会	白鷹西中	〃	佐藤 俊一	県中学校教職員代表	上南中
〃	伊藤 秀紀	鶴岡市PTA連合会	鶴岡二中	〃	高橋 裕美	母親委員長	山九中
理 事	高橋 哲也	上市市PTA連合協議会	上南中	〃	佐竹 直子	母親副委員長	上南中
〃	佐藤 光之	天童・東村山地区PTA連合会	山辺小	監 事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	滝山小
〃	大沼 一雄	西村山PTA連合会	陵東中	〃	高橋 功一	上市市PTA連合協議会	上南中
〃	氏井 由隆	北村山PTA連合会	楯岡中	〃	江口 俊和	山形市PTA連合会	金井小
〃	齋藤 芳明	米沢市PTA連合会	南原中	事務局長	鈴木 幹雄		
〃	細越 順一	東置賜地区PTA連合会	高島四中	事務局員	佐藤 静子		
〃	鶴巻 学	東田川郡PTA連合会	立川中	事務局員	熊谷 慶子		

お知らせ

山形県PTA連合会による

「東日本大震災復興支援事業」

◆東日本大震災からまる三年がたちますが、まだまだ傷跡深く問題は山積しています。ただ被災地の方々に笑顔が戻っている様子がテレビなどで報じられるとホッとします。復興作業は続いています。けしてこの歩みを滞らせてはいけません。

◆山形県PTA連合会では、今年度も「書き損じ葉書の回収」と「募金活動」を続けてまいりました。

◆集められた復興支援金は、山形県PTA連合会独自の活動として、復興支援を目的とした子どもたちの健康やかな育ちや笑顔づくりを支援する活動や、復興支援に関わる子どもたちや単位PTA間の交流活動などに助成されることが検討されました。

◆六月の県PTA連合会総会を経て「取り扱い要項」等を各単位PTAにお知らせし、助成の申請を受け付けることになりました。

◆この助成金は、県内に避難している子どもたちやご家族との交流、被災地と交流されているPTAなど、復興支援に関わる使途を目的に広くお使いいただけるものになります。